

宗像市市民参画等推進審議会会議録（要旨）

日 時	平成26年12月12日（金）9：25～11：25
場 所	宗像市役所 202会議室
委 員	■ 安部正俊、■ 井上豊久、■ 志岐宏美、■ 中里留美子、■ 東博子、 ■ 前田誠、■ 松永年生、■ 南博、□ 山下恵美子、■ 吉田晴希 （五十音順、敬称略）
事務局	市民協働・環境部長；福崎 コミュニティ・協働推進課；瀧口、村上、福島、合島

1. 委嘱状交付

《部長あいさつ》

本日の出席と、日頃からのご理解ご協力への感謝。審議会委員の委嘱をさせていただいた。これから2年間、よろしくお願いします。

日本はこれから本格的な人口減少社会に入っていくと言われており、消滅自治体の可能性も示されている。このためには地域活性化策が重要になる。本市のこれからのまちづくりについては、行政はもちろん市民、市民活動団体、企業、大学、コミュニティと色々な所との連携が必要と考える。

平成27年度から新しいマスタープランが始まる。この中でも協働を全面に出して取り組むこととしている。委員のみなさまにはこれからも様々な、新しい目で見ていただきたいと思っている。

2. 自己紹介

委員、事務局自己紹介

3. 会長、副会長選出

宗像市市民参画、協働及びコミュニティ活動の推進に関する条例施行規則第34条第2項に規定に基づき、会長、副会長は委員の互選。

会長に井上委員、副会長に東委員を推す声あり。全員異議なしのため、次のとおり決定。

会長；井上豊久

副会長；東博子

4. 協議事項

（1）審議会の役割、職務についての説明

資料に基づき、事務局から説明。

《質疑等》

●人づくりでまちづくり事業報告会の日程は決まっているのか。

⇒3月26日の予定。時間等詳細は未定。協働化提案制度も含めて、午前から午後にかけて行われる。例年では午前が人まち事業、午後が協働化提案となる。改めて案内するので、可能な委員は参加いただきたい。

●参画条例において、実施機関は会議の議事録を作成し、非公開情報を除き公開となっている。当審議会にかぎらず附属機関は、市のウェブサイトで資料と議事録は公表されているが、そもそもウェブサイトが見つらいということもあるが、審議会同士で議事録の体裁が、要点筆記のところもあればテープ起こしのようなものもある。要点筆記よりも更に簡単で、決定事項のみ書かれたものもある。市全体として議事録等について軽視しているのではないか、というのが一点目の指摘事項。もう一点はこの審議会に係る事項で、今期はどのように扱っていくのか。

⇒審議会の議事録については、予め要点筆記にするのか全部筆記にするのかを、審議会の中で決めていただいて、その情報を公開する。公開にあたっては個人情報等に支障がないように出すが、前提としては審議会でどういう取扱いにするかを決めていただくのが原則となっている。

●早速決めてはどうだろうか。

●当審議会の議事録は要点筆記。ただし、委員の手持ち資料用に口述筆記に近いものを用意いただいている。公開は、少し丁寧な要点筆記で構わないのではと思う。どのような議論があって、どのような結論になったかが、閲覧した人が分かるような。

●私も丁寧な要点筆記レベルの方が読みやすいと思う。ちょっと論点が変わるが、非公開情報を除き公開するとなっているが、会議の開催状況によると審査が多く、殆どが非公開情報となる。個人的な意見だが、応募団体との個別のやり取りはともかくとして、それを採択するかどうかの議論の部分が非公開情報なのだろうか。公開してもよいのではないかなと思うが。

⇒傍聴についても、団体が入っての審査には入っているが、最終的な審査の時は非公開としている。それに合わせて議事録も作成している。

●そうなると議論の経過は分からなくなる。個別に提案団体に採択された理由だとか、不採択の理由は説明されていると思うが、それが市民の目には分からない形になっている。それが果たして市民参画の趣旨に合っているのかという気はする。もちろん議論する過程において自由な意見を述べるために、それが公開されるという前提により言いづらいというケースもあると思うが、特にこういう実績を見ると、審議会そのものが何をやっているのかということが市民には分からないのではないかと、市民へ説明責任を果たしているのか、というのが疑問となっている。これは提案ではなく、意見、感想ということで申し上げている。

●人まち事業は殆ど採択なので、そのことでホームページで見たり問い合わせがあったりしていないが、他の自治体の例は採択の件数が少ない。その場合は、簡単だが審査の結論的な部分、この事業はこの理由で採択になった、不採択になった。そういうものを公開している自治体が多いのではないかと。市民に公開するにおいて、理由が分からないというのは問題だと思う。今日結論を出すのではなく、審議会の中で意的な中で、事前検

討会の際などに、審議会の審査について情報の公開はどうあるべきか、検討してどうだろうか。

●個別の案件ではなくて、ここでみなさんどう考えるか、不採択であれば何らかのものを付けて市民のみなさん知らせることが大事ではないか。

●それぞれの審議会が、どのようなレベルでの公開を行っているかは把握していないか。
⇒把握はできていない。それぞれの審議会が決めている。公開すべき項目は決められているが、その内容は各審議会に任せられている。マニュアルでも、そこまでは決めている。

●当審議会の委員用資料としての議事録は、詳しく書かれているので、欠席しても内容が把握できる。他の審議会にとっても参考となるような取り組みが必要。

●他の状況も調べていただいて、全てが同じ状況とはいかないと思うが、当審議会から提案、提言ができれば良いのではないか。

⇒マニュアルの見直しも考えているので、併せて検討したい。

●希望として、当審議会は市民活動団体との連携、協働にも関わってくるので、団体の状況を、毎回でなくても構わないので、今の市民団体がどういう動きをしているのか、人まちとか協働化提案だけではなくて、団体の動き等や課題、問題を情報として提示いただけるような機会を設けていただければと思う。

●以前、協働化提案に関する学習会を行い、非常に有益だった。今言われた内容も含めると、審議会の回数を増やさざるを得ないかと思う。市民提案型の事業を審査するという機会も出てくる可能性もある。それについて、丸々一回は充てる必要もあろう。常に全員は難しいかもしれないが、市民活動全体に関する内容を一回いれる必要があると感じている。

●制度の見直しなどは、全体で話しても時間がかかると思うので、専門部会が条例にも規定されており、市民活動推進プランや協働化提案制度の見直しに際しても専門部会で原案を作ったので、部会を活用することも考えられるのではないか。少し時間をかける必要もあろう。

●市民活動団体の生の活動状況を取り扱う機会はないので、市民としても知る機会も少なく、情報をどうやって出していくかの前に、この審議会でもその内容について情報だけでもいただけないかと思う。

●市民活動団体の情報だけではなく、世の中は変わりつつある、そうすると行政サイドを含めて、或いは団体の活動をどう変えていくのかということも、ある程度議論して、そういうものも含めて提案していくということも大事なのではないか。

●専門部会において、市民サイドからの政策提案の制度設計をどうすればよいのか、ということも大きな柱だし、市民活動の最前線の情報をどのように審議会としてキャッチしながら活動をしていけばよいのかということはテーマになり得ると思う。審査、審議に忙殺されている。新しいものに取り組んでいきたいということもあるので、審議会としてはターニングポイントにある。問題を整理して、この審議会の在り様に、或いは活動のあるべき姿について議論をする。そして何かまとめることができるのであればまとめる。そういったテーマを設定して、それを議題とする専門部会を、3、4人で構わないと思うがプロ

ジェクトチームを作って、ということをやれば良いと思う。条例によると、会長が決めて良いことになっている。

●中間支援組織としてのむなかた市民フォーラムがあるが、市民フォーラムと付き合いがある所は市民フォーラムが情報を把握している。尚且つある程度まとまった形で資料としてはあるのだろうが、市民フォーラムとの接点が無く活動している色々な団体もあると思うが、その辺りの情報は、市で把握しているのだろうか。

⇒団体の生の情報と先ほども言われたが、市での把握は弱い状況。市が関与して作った協議会や団体とは関連があるが、全く自主的に作られた市民団体などは、接点がないというのが実情。

●部会で検討されるということは良いことだと思う。その際は市民フォーラムの枠に入っていない活動も含めて状況把握をやっていただきたい。市民フォーラムの活動は評価しているが、そうでない部分にも、ということで。

●市民フォーラムについて、当初は百何団体を市と協働しながら登録して情報提供してきた。例えば音楽、スポーツ、芸術団体という所までは、まだなのかなという部分はある。その他は、当然こちらが把握している分だけの把握になるので、中々難しい面もあるので、是非宗像市としての活動だと思うので、そういう形で検討させていただければと思う。本当に活躍している団体も結構出てきているので、そういったところも先駆的な事例みたいなものも機会があれば、色んな所を伺えたらと思う。

⇒厳しい日程の中で、そのような想いを持っていただけることに大変感謝している。本来協議すべき事項について、行政として着手できていない事項も沢山あり、市民参加を更に推進するためにもっとテコ入れをするべきではないか。マニュアルの見直しから庁内の協働推進体制の改革まで含めて、少し大きな宿題を頂いているところなので、そのようところで相談させていただいたり、助言をいただく機会が増えてくるのではないかと思う。

中間支援組織について、私見だが、市民活動推進プランでは市民活動の四つの主体として市民、市民活動団体、コミュニティ、大学や企業を掲げ、市民という位置づけをしている。中間支援組織については、例えば市民活動団体であれば市民フォーラムが担うことになるが、それ以外の部分まで市民フォーラムが中間支援ができるかというと、そうではない。もう一つ市民活動の拠点になっているのがコミュニティ。色々な情報や人がコミュニティに集まっているので、その中の情報を集約したりだとか、大学連携や企業連携も進めており、そういったところも情報が集まってくる。市民単体で活動している部分では、市が直接触れることがあるのは市民活動総合補償制度への加入時に、ある程度情報の集約はできると思う。それぞれの主体でどういう立場の人たちが情報を集約するのか、その集約した人たちがまた連携してやっていくことで、情報ネットワークが広がっていくのではないかな。中間支援機能ということが、行政、企業や大学、市民活動それぞれが持って、その中間支援機能を持った者たちが一つのネットワークを作っていて情報を共有していくということが、これから考えていくべきところかなと思う。特にその中でも行政の中間支援機能、コーディネート力の向上が、一番の課題と思う。

- 問題点の指摘や改善点だけでなく、宗像市全体が発展するために、審議会が後押しするような、審議会を考えながら進めて行きたいというところで、また意見をいただきたい。

(2) 第2次コミュニティ基本構想・基本計画策定状況の報告

10月21日に諮問し、現在審議中の案件。今日が初めての委員もいらっしゃるので、現在の策定状況の報告とさせていただき、次回以降審議をお願いする。基本計画部分は前回審議いただいた。基本計画は策定部会で検討中の内容なので、全体的なイメージを把握いただくため、参考資料としての位置づけで添付している。

資料に基づいて説明

《質疑等》

- 何かの形で市民力という言葉を入れていただければ。それと「つながる」という部分で、市民活動団体と外の部分で、つながりがうまく出せるような内容を入れていただければと思っている。
- 3ページの計画の位置づけの図について、好みの問題とも言えるが、第2次総合計画と市民参画条例が行政の枠の中にある。それらは地域も含んだ枠でないとおかしいのではないか。行政だけの計画ではないので、地域の方にもかかるような絵の方が良いのかなと、体裁の問題なのだが。
- コミュニティの将来像について、10年後はどうかということで、10年20年経つと消滅する自治体もあるなど、非常に財政的に、将来的に厳しい状況。その辺りが基本計画についても非常に明るい、光と影の光の部分だけが出てきて、シビアな地域づくりにどういう風にそれに対処していくか、その辺りが少し足りないのではないか。
- 財政の厳しさはかなり意識されているのではないかと感じている。財政的に厳しいという言葉が随所に書かれている気がした。
- 財源の上に成り立ってまちづくりがある。そうするとコミュニティの将来像については、その辺りを踏まえたうえで、将来こういうことが想定されるが、かくかくしかじかでこういうことを乗り切って行こう、そのための基本企画についてはこうですよと、それは当然踏まえているということをしなないと、全体的なことを何も言わないで、財政のところだけ財源で言ってますよと、基本を踏まえないで、一番財源が問題、それを抜きにしてはどうかという気がしている。
- 全体の中でも厳しい状況ということ踏まえるべきということか。
- 今までやってきたことに対して、更にこういうことに重点を置かねばならないとか。
- 行政の職員が今後増えていくということも考えられない。難しい状況は変わらないだろう。
- 協働参画とかではなくて、小さな行政ではないが、こういうことやらざるを得なくなるというときに、地域がどういう役割を持つのか、そこまで考えていかなければならないということ、そういう状況に来つつあるということ。施策がどういう風に今までのものと変わっていくかということが入っているかということ。
- 第1次に比べると、財政が厳しいということは意識されていると思う。個別の案は部分

的にしか出されていないが、結構出てくるのではないかと感じている。基本構想では、そこが押さえられているかという判断は難しいが。次回以降、基本計画が示されるので全体を見て、財源の見通しの認識というか、その考えが十分か不十分かということ、全体を見て意見を言う必要があるのではないかと。

●人口減の問題もあり、将来的には小学校の統廃合も含めて、そうなった時にコミュニティもそれにつれて統廃合というような方向性があるのかないのか、そういうことも踏まえてどうするのかという、大きな課題と捉えているが、我々もどう関わったら良いのかということも含めて真剣に議論する必要があるかと思う。

●答申までのスケジュールは。

⇒1月上旬に審議いただいて、必要な時期にもう一度参集いただくことになる。

●コミュニティは宗像市の特色ある施策なので、細かい部分も検討する必要があるだろう。

●宗像は外から見ても参画、協働が先進的で、特に良いのが中間支援組織。色々話を聞きながら中間支援組織がどういう役割を担って、実態が見えないところもあるが、図に示されているような行政、住民組織、市民活動団体等の中間に位置する組織が機能しているのだろうと思う。その中で、むなかつ市民フォーラムがそこに位置すると思うが、先ほどの説明ではコーディネート能力が課題であると言われていた。この中間支援組織がいかに重要かと認識されているかと思った。協働が進んでいる一つのイメージに、行政の意識がかなり変わってきていて、行政がマッチングするだとか、手を組んでやるだとかと、その姿勢があるというところが変わってきていると思う。中間支援組織が行政を巻き込んでいる、だからこそ年を重ねて行政のコーディネートが進んでいるのかなとイメージしている。コーディネート機能の充実が必要と思うが、今までどのようなコーディネーターの養成がなされていて、実際どのような役割を担っていて、これからどうするのかという具体像が垣間見れると良いのでは、と思った。行政職員のコーディネート、誰を対象にどのようにして力を付けようと考えておられるのかが、特に興味がある。NPOの方やコミュニティの方もその役割を担っていただこうとするときに、どういう養成方法があるのか。もう一点、コミュニティについて、住民自治や市民参画、協働というところで先進的だが、自治会の加入率が年々下がってきている。これはある意味逆行していると思うが、ここはどう原因を捉え、それを解決するためにどうしようとしているのか、というところも伺いたい。

⇒中間支援組織、機能ということについては、今まで市民フォーラムに丸投げしていたということがある、様々な中間支援組織があるが、行政の中では中間支援組織は市民フォーラムという面が余りにも強すぎたのかと思う。来年度の委託業務に関しては、市民フォーラムの役割を見直して、行政と他の組織も含めてそれぞれが自分の特性を活かしせる仕組みに変えようということで、委託内容を変えたところがある。本来は行政の中での中間支援機能、例えば地域の課題を引き上げてきて、それ必要な部署や施策と結び付けていく、というところがまだまだ希薄なところがあるかと思う。それ進めるためにどうすべきかということについては、逆に審議会委員のみなさまからの提案もいただきながら、行政と地域が対等なパートナーという意識が十分なのかとい

うところからも含めて、掘り下げていく必要があると思う。そのようなところからのコーディネート能力、コーディネーターとしての自覚を職員が持つような働きかけをしていく必要があろうと思う。具体的な方策はこれから検討していくことになる。

●担当課は地区の状況が分かっているが、色々な課があるので、市全体で、着実に進んでいるとは思いますが、まだまだのところもあるのかなと思う。

⇒2点目の自治会加入率について。加入率が減って自治会の能力が低下してきているということが、コミュニティ施策を始めた一つの要因でもあった。今までは行政と自治会との関係であったが、行政も課題が増えてできることが限られてきた、自治会についても加入率の低下や高齢化、希薄化により能力が落ちてきた。その間の部分を補完できる組織を作らなければということで、小学校区単位を一つの区域としたコミュニティを作って、そこに権限と財源を移譲して取り組んでいただくということになっている。小さい所では5から6の自治会、大きい所では十数の自治会を抱えたコミュニティもある。自治会はコミュニティの大きな母体にもある。今後の自治会加入ももちろんだが、コミュニティの活動に関わっていただきながら、地域との関わりを増やしていくようなことができないか、ということを経験していかねばならない。

●コミュニティ施策が成功しているところがありながら、自治会の加入率が下がっているということは、その理由を分析して改善策を講じる必要があろうかと思う。宗像は市民活動が突出しているという印象がある。しかし、ここまではっきりと課題を示しているということは、もっと地域活動に携わってほしい、という想いがあると思う。12のコミュニティについてそれぞれ地域性があるということだが、それが例えば自治会加入率とどう関連があるのか、特徴がどう反映されているか、地域活動に携わった人の割合がどうなのか。行政が捉えているイメージと違った実態があるかもしれない。そういう地域性の分析をされると、もっと具体的な方策が出てくるのではないかなと思った。

●当地区ではまちづくり計画の見直しを行っている。アンケートを実施したが、関わりを持ったかどうかについては、結構高い数字が出ている。機会があれば提供しても構わない。しかし、自治会加入率は非常に低い。学生やアパート関係が多い。他の地区では違う状況だろう。

●全国、全体的にも厳しい状況にはある。コミュニティを実施している他自治体と比べても、それでも宗像は75%とがんばっている方だと思う。

●個人的には、国からのヒモ付き補助金はあまり善しとしていないが、そうは言っても厳しい財政状況の中で取れるものは取った方がと思う。例えば農水省で地域マネジメント法人の制度化などがあるが、適用できる地域は限られると思うが市内でも適用できる地域もあるかもしれない。また国交省で新しい国土形成計画の策定を9月から始めて、来年の夏には全国計画をまとめるように動いているが、その中でもいわゆる新たな公という、今の国土形成計画でも言っているものを制度化しないといけないという話もされているが、そういう制度を作ったときには、最初はおそらく制度普及のために何らかの補助金が提示される可能性もあると思うが、そういった新たな法人化、制度化のような話について何か市で把握しているようなことはあるか。

⇒承知していない。

●多分そういう方向に行くと思うので、取れるものは取った方が良くとおもうので、このような基本構想・基本計画があればすぐに手を挙げられると思う。また仮の話で、今の状況が続くとするならば、来年度に市で総合戦略 5 か年計画というものを来年 1 年間で作ることになると思うが、その中でもこういうコミュニティの話だとか市民活動の話を積極的に、コミュニティの方で使うのは重要であるが、折角作るのであれば、そういう所にも戦略的に使ってはどうかと思う。

●国としてこういう格好で国づくりをやるということであれば、自治体も当然それを踏まえたくて自治体のものを作るということは、是非やっていただきたい。

5、その他

(1) 宗像市優良環境行動賞表彰選考委員会委員について

同選考委員について、当審議会から 1 人就任の依頼を受けている。事務局から概要説明。
東委員の就任提案⇒承認

(2) その他

後日、次回の日程調整をお願いするので、よろしくお願いします。

＝ 散 会 ＝